

産業クラスターの成功例と地方政府

○ どのような国のあり方（地方自治制度）が地域経済の発展に結びつくのか？ ミクロの例（産業クラスターの成功例）から見ると...

	アメリカ	ドイツ	スウェーデン	イギリス
クラスターの例	<p><u>テキサス州オースティン市</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • テキサス州の州都。1930年代のコロラド川の開発によって家具や煉瓦、食料品、製油、皮革などの工業が発展。 • 急速にIT産業が発展し、目覚ましい経済成長と人口増加を誇る。周辺は丘陵地が多いため、シリコンバレーに倣いシリコンヒルズと名乗る。 	<p><u>ノルトライン＝ヴェストファーレン州ドルトムント市</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • ルール地方の工業都市。 • 70年代までは鉱業、自動車、重化学工業などが栄えたが、70年代後半から衰退。 • 80年代以降、先端技術企業や公的研究機関の誘致、大学の拡張を契機にマイクロテクノロジーのクラスターを形成。 	<p><u>スコーネ地方（メディコンバレー）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 70年代に造船業が衰退。 • 海峡を挟み、スウェーデン側とデンマーク側が別々にIT、バイオ関係の企業誘致、育成。 • 90年代以降、両国間の連携が進み、国際的にも著名なバイオクラスターに（四国くらいの面積に、300のバイオ関係企業が立地）。 • 2000年には海峡が橋で連結。 	<p><u>ケンブリッジ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 60年代末までは産学連携は低調。 • 70年代以降、ケンブリッジ大学を核に産学連携が進み、現在ではエンジニアリング、バイオなど3500社が立地するクラスターを形成。
連邦・中央政府の役割			<ul style="list-style-type: none"> • スコーネ地方通商産業局とデンマークの投資誘致機関が共同で、非営利のネットワーク機関を創設。大学、研究機関、企業、技術移転機関をコーディネート • ルント大学（国立）が積極的に技術移転。 	
地方政府の役割	<ul style="list-style-type: none"> • テキサス大学（州立）が中心となり、ハイテク企業や研究機関の誘致、技術の商業化モデルの研究や専門的な人材を育成。 • インキュベータ施設などの支援機関への補助（州、郡、市）。 	<ul style="list-style-type: none"> • 州政府による企業支援機関（IVAM）への助成。 * 予算の50%（当初は80%） 		
民間の役割	<ul style="list-style-type: none"> • 民間企業から招聘された経営学部長のリーダーシップ（テキサス大学を核としたクラスター形成に重要な役割）。 	<ul style="list-style-type: none"> • IVAMによる企業間のネットワーク、マッチング、情報発信事業等 • 既存の産業集積によるニーズ（高品質部品への要求） 		<ul style="list-style-type: none"> • 独立性の高いカレッジや学部がサイエンスパークや研究所を設置し、技術移転や資金調達を支援。 • 公式の支援組織はなく、多様なネットワークがクラスターの原動力。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 成功の鍵は、信頼に基づくクラスター内のネットワークと、それを形成する支援機関・支援策。その担い手は中央・地方政府、民間とまちまち。 • 日本も資源（技術、人材、政策）はあるが、必要な単位（ex 関西）で信頼に基づくネットワークを形成できていない。→ 関わる「政府」の多さ 			

【参考】内閣府「世界経済の潮流」（2004年秋）